

■2019 年度 A 日程一般入試・実務経験者特別入試筆記試験 「長文読解・小論文」問題の出題趣旨・解説

【出題趣旨】

1 問一について

〔問一〕は、文章の大意を600字以内で述べさせるものであり、文章の内容を正確に理解し的確に要約する能力を問うものである。

この論述については、「世代間格差」を経済社会の制度の根本的な課題が累積し、顕在化した現象と捉え、その内容を分析し（政府に支払う負担総額と受け取る受益総額、公債の累増、経済環境・労働市場の相違）、世代間格差は様々な基準や意見を検討しても正当化しえず問題であるとする本文の記述を正確に理解しているか、的確に要約できるか、読みやすくわかりやすい正しい日本語の文章を書くことができるかどうかを評価している。

2 問二について

自分自身の考えを、明確に、根拠をもって、論理的・説得的に述べる能力を問うものである。

この論述については、世代間格差の原因、及び、今後どのように対応すべきかについて、自分自身の考えを、読みやすくわかりやすい正しい日本語の文章で書くことができるかどうかを評価している。

【解説】

1 解答にあたっての注意事項と解答方法について

解答にあたっては、問題表紙に、①解答の訂正方法（斜線又は横線での消去と次のマス目からの書き直し）、及び、②記入方法（記入欄・横書き）が指示されており、当然それに従った解答が求められる。

この指示に従っていない場合、例えば、訂正した同じマス目の中に訂正後の解答を書いたり、解答欄外に訂正後の解答を書くなど、指示に従わずに解答を訂正している場合は、その部分は記入がないものとみなすなどして採点を行った。

また、誤字・脱字は言うまでもなく日本語能力の問題であり、採点基準に含めている。

2 問一について

「世代間格差」は経済社会の制度の根本的な課題が累積し、顕在化した現象であること、その内容の分析（政府に支払う負担総額と受け取る受益総額、公債の累増、経済環境・労働市場の相違）、世代間格差は様々な基準や意見を検討しても正当化しえず問題であることについて、1)内容を正確に理解しているか、2)的確に要約されているか、3)読みやすくわかりやすい正しい日本語の文章であるか、等を基準として採点している。

3 問二について

世代間格差の原因、及び、今後どのように対応すべきかについての自分自身の考えが、論理的に記述されているか、問題文の単なる要約となり問一の回答と重複していないか、読みやすくわかりやすい正しい日本語の文章となっているか等を基準として採点している。

以 上